

# フィールドワークへのいざない ～総合文化研修計画Ⅰ・総合文化研修Ⅰ実施報告～

An Introduction to Fieldwork

～A Report on First Year Fieldwork in Omori Town～

加藤 暢恵、ダスティン・キッド、鹿野 一厚  
(総合文化学科) (総合文化学科) (総合文化学科)

キーワード：フィールドワーク、問いを立てる、仮説検証

## 1. はじめに

短期大学部総合文化学科では、「身の回りの地域で生起している諸課題と主体的にかかわる態度の育成を目的として、[専門科目]に[文化資源の活用][総合文化研修]の科目群を配置」している。本稿で報告する総合文化研修計画Ⅰおよび総合文化研修Ⅰは、この科目群[総合文化研修]に配置された科目であり、研修を通して地域の人びとの生活に触れ、その体験を通して自分で考えるためのきっかけをつかむことを主な目的としている。

総合文化研修計画Ⅰは、総合文化研修Ⅰの事前学習の機会として位置づけられており、総合文化研修Ⅰのフィールドワークを行うために必要となる知識の習得や事前調査などを行う。疑問を持つ、問いを立てる、仮説を提示する、仮説を検証する、という一連の流れを意識させる授業構成となっており、大学における学び方の基本を体験的に学ぶ機会でもある。

総合文化研修Ⅰでは、学生自身が立てた計画に基づいて実際にフィールドワークを行い、問いに対する仮説の検証を行う。問いに対する仮説の検証が成果として期待できるのはもちろんのこと、実際に検証していく中で、学生たちが人とのコミュニケーションの難しさを実感したり、仮説や検証方法の甘さ・未熟さに気づいたりすることもよい経験となる。このような経験から学生たちが自分で考えるためのきっかけをつかんでくれることも期待したい。

総合文化研修計画Ⅰおよび総合文化研修Ⅰは、本年度新たに開講された科目である。本稿では、総合文化研修Ⅰおよび総合文化研修計画Ⅰの実施初年度の取り組み状況について報告する。

## 2. 授業概要

以下に、総合文化研修Ⅰおよび総合文化研修計画Ⅰの科目の概要と到達目標を示す。

## 1) 総合文化研修 I

### (1) 科目の概要

本科目は、以下の 2 点を目的として、一年生の夏季休業期間中に 2 泊 3 日のフィールドワークを行う演習科目である。

- ① フィールドワークの難しさを知るとともに、その楽しさも体感すること
- ② フィールドに出て実際に様々な体験をすることを通して、地域社会や文化に対する興味・関心を高めること

### (2) 到達目標

本科目の到達目標は以下の 3 点である。

- ① フィールドワークを行うための基礎的な知識と技能を習得している。
- ② 「総合文化研修計画 I」で作成した計画に沿ってフィールドワークを行うことができる。
- ③ フィールドで学んだことを自分の言葉で説明することができる。

## 2) 総合文化研修計画 I

### (1) 科目の概要

本科目は、「総合文化研修 I」の事前準備を行うことを目的としている。「総合文化研修 I」では、島根県東部の石見銀山（大田市大森町）においてフィールドワークを実施する予定であり、そのための準備として、フィールドワークや文化資源に関する基礎知識と、石見銀山および大森町に関する予備的な知識を身につけた上で、「総合文化研修 I」の実施計画案を作成する。

### (2) 到達目標

本科目の到達目標は以下の 4 点である。

- ① フィールドワークを行うための基礎的な知識を習得している。
- ② 文化資源に関する基礎的な知識を習得している。
- ③ 石見銀山と大森長に関して、フィールドワークを行う上で、必要となる基礎的な知識を習得している。
- ④ フィールドワークの実施計画案を作成することができる。

本授業は 3 名の教員により役割分担しながら担当した。3 名の役割分担を以下に述べる。総合文化研修計画 I においては、鹿野が授業設計を行い、鹿野、キッド、加藤の 3 名で指導計画の検討を行った。授業はチームティーチングで実施し、鹿野が授業を進行し、キッド、加藤はサブとしてグループワークの支援を行った。総合文化研修 I においては、鹿野が授業設計を行い、鹿野、キッド、加藤の 3 名で実施計画の検討および関係機関との事前交渉等、研修実施に必要な事前準備を行った。

### 3. 実施状況

#### 1) 方法

総合文化研修Ⅰおよび総合文化研修計画Ⅰの受講学生はともに30名（男性4名、女性26名）であり、7～8人を1組として4つの班を設けた。総合文化研修計画Ⅰは総合文化研修Ⅰに参加する学生を対象として開講する科目であるため、両科目の受講生は同一の学生である。

各授業のスケジュールを表1、表2に示す。まず、総合文化研修計画Ⅰにおいて8回の授業を行った。本授業では、事前調査の方法について説明し、対象地域である大森町の事前調査を行った。事前調査の実習課題内容を表3に示す。また、事前調査の結果に基づき、大森町の歴史、社会、文化について、問いを立て、その問いに対する仮説と検証方法を考えた。総合文化研修Ⅰでは、総合文化研修計画Ⅰで作成した調査計画に従ってフィールドワークを行い、仮説の検証を行った。フィールドワークの様子を図1～6に示す。なお、写真掲載にあたっては、本人の承諾が得られている

#### 2) 対象地域と調査内容

対象地域は、石見銀山（大田市大森町）である。調査内容は以下の通りである。

##### 【1班】

- ・ 大森町にはなぜ寺社が密集して建っているのか？
- ・ 大森町には自然と共生するどのような文化があるのか？
- ・ 大森町が人びとを惹きつける魅力は何か？

##### 【2班】

- ・ 天領さんはどのような思いで作られ、継承されてきたのか？
- ・ 大森町の家の特徴は石見銀山とどんな関係があるのか？
- ・ 群言堂の若い人はなぜ大森町にきたのか？

##### 【3班】

- ・ 大森町の人びとは、観光客の増加と減少と現状維持のどれを望んでいるのか？
- ・ 大森町の子どもたちの遊び方に昔と今とで違いはあるか？

##### 【4班】

- ・ 大森町にIターンした人はなぜ大森町を選んだのか？
- ・ 大森町の行事のなかで過去に消えた行事はあるか？ そこから大森町の歴史の変化を探ることはできないか？

表1 総合文化研修計画Ⅰスケジュール

回	月日	内容
第1回	6月12日(火)	オリエンテーション、事前調査の方法説明
第2回	6月19日(火)	事前調査：「自分が納得する」をつかむ
第3回	6月26日(火)	事前調査：「自分が納得する」をつかむ
第4回	7月3日(火)	調査計画の準備：「問い」を立てる
第5回	7月10日(火)	調査計画の準備：「問い」を立てる
第6回	7月17日(火)	調査計画の準備：「仮説」を立て、「検証方法」を考える
第7回	7月24日(火)	調査計画の準備：「仮説」を立て、「検証方法」を考える
第8回	7月31日(火)	調査計画の立案

表2 総合文化研修Ⅰスケジュール

月日	内容
9月25日(火)	午前：フィールドワークの方法と留意点について【講義】
9月26日(水)	午前：石見銀山世界遺産センター見学 午後：大森の町並みガイドツアー、班ごとにフィールドワークの準備
9月27日(木)	終日：班ごとにフィールドワーク（仮説の検証）
9月28日(金)	午前：班ごとにフィールドワーク（仮説の検証） 午後：自由行動、清掃等
9月29日(土)	午前：成果報告会

表3 事前調査の実習課題

回	課題内容
第1回	グループごとに「大森町の自然と歴史について」調べなさい
第2回	今回の授業で出た疑問の中から3つ選びそれらについて調べなさい
第3回	グループごとに「大森町の社会と文化について」調べなさい
第4回	グループごとに今回出た「問い」を再考・整理して、レジюмеにまとめなさい
第5回	前回の「問い」を見直して「小さな問い」を3つ考え、レジюмеにまとめなさい
第6回	「問い」と「仮説」と「検証」方法をレジюмеにまとめなさい①
第7回	「問い」と「仮説」と「検証」方法をレジюмеにまとめなさい②
第8回	調査計画を立てなさい

#### 4. フィールドワークに対する学生の意識

フィールドワーク後の感想レポートに記された学生たちのフィールドワークに対する意識に関する記述を示す。以下の記述については、事前に学生に説明し、レポートの引用について承諾が得られたもののみを掲載している。

まず、事前学習に対する記述は以下のとおりである。

- ・ 問いを考え、その問いに対する仮説や検証方法をグループで意見を出し合いながらレジюмеにまとめていくという作業が、想像より大変でした
- ・ 仮説を立てることに困惑した

- ・ 行く前までは「なぜここまでの事前調査が必要なのだろう」「現地で見ればわかるのではないか」と考えていました。しかし、実際に訪れてみると事前調査とガイドさんの説明なくしては確実に魅力がわからなかったであろうことを痛感しました
- ・ 事前学習では大きな疑問の意味が分からず、上手くいかないことのほうが多かったのですが、今なら現地に行く前の学習の重要性が分かります
- ・ 自分である程度調べてからフィールドワークを行うことで、より深い魅力や面白さを知ることができるのだと身をもって知ることができました
- ・ もっと深く事前に調べていたらフィールドワークのテーマに活かせるのではないかと思った

このように、事前学習については、事前学習の困難さに関する記述や実際にフィールドワークを経験したことにより事前学習の重要性を感じたとの記述がみられた。

次に、フィールドワークに関する記述を示す。フィールドワークに関する記述には、以下のように、実際に調査を行う上での苦勞を体感したことを示す記述がみられた。

- ・ 適切な質問をして知りたい情報について詳しく掘り下げるということの難しさを知った
- ・ どこまで踏み込んだ質問をしてよいのか非常に戸惑うこともありました
- ・ 資料で調べるだけでは決してわからないことを知ることができるという面白さと、人の生活に勝手に入り込んで根掘り葉掘り聞くという罪悪感に似たようなものも少し感じられた

また、以下のように、実際に経験したことによってフィールドワークの重要性を実感したという記述も見られた。

- ・ フィールドワークを行い一番身に染みて分かったのは、実際に現地に行って調査しないと分からないことが多いということだった
- ・ フィールドワークでは本やネットには載っていない人の思いや考えを聞いたことが一番の収穫でした
- ・ 思い描いていたイメージや、調べて考えた仮説とは全く違うことが多くて驚きました

そして、大森町の方の町に対する想いに触れたことにより、自分も住む地域に対する関心の高まりが感じられる記述もみられた。

- ・ 自分の地域を考えるきっかけになった

- ・ 自分の故郷の誇りを持ち、きちんとした知識を身につけなくてはならないと思った

## 5. おわりに

今回実施した石見銀山(大田市大森町)におけるフィールドワークに対して、受講した学生からは、実際に現地に行って調査しなければわからないさまざまな発見があったことや事前調査をすることでより深い魅力やおもしろさを知ることができると感じたことなど、フィールドワークの魅力を述べる感想が多く聞かれた。また、実際に調査を行ったことにより、フィールドワークの難しさも実感できたことがわかった。

以上のことから、総合文化研修Ⅰの目的である「①フィールドワークの難しさを知るとともに、その楽しさも体感すること」、「②フィールドに出て実際に様々な体験をすることを通して、地域社会や文化に対する興味・関心を高めること」は概ね達成できたのではないかと考える。

一方で、事前学習において、疑問を持つこと、問いを立てること、仮説を立てることに困難を感じたとの意見があったため、事前学習の取り組み方を次年度の課題としたい。



図1 大森の町並みガイドツアーの様子①



図2 大森の町並みガイドツアーの様子②



図3 フィールドワークの様子①



図4 フィールドワークの様子②



図5 フィールドワークの様子③



図6 フィールドワークの様子③